

1 事業名 令和元年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
「チャレンジイーハトーヴ～岩手山一周トライアル！！～」

2 趣 旨 秀峰岩手山や周辺の豊かな自然環境の中で、自然体験活動及び野営や炊事などの自立を促す生活体験活動を通して、仲間の大切さや協力することの大切さを学ぶ。また、岩手の魅力を再発見し、ふるさとを愛しむ心情を育む。

3 期 日 令和元年8月1日（木）～8月7日（水）【6泊7日】

4 参加者 岩手県内 小学5年生～中学2年生 15名 男子12名 女子3名  
※参加人数の内訳

都道府県	参加人数	5年	6年	中学2年	中学3年
岩手県	15名	5名	7名	1名	2名

5 後援・協力 岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 滝沢市教育委員会 八幡平市教育委員会  
雫石町教育委員会 岩手山焼走り国際交流村 雫石神社 雫石御明神公民館  
道の駅雫石あねっこ 県営漕艇場艇庫 御所湖管理事務所 雫石歴史民俗資料館  
相の沢キャンプ場 網張り温泉 登山ガイド山の風 滴石史談会 松ぼっくり  
雫石高等学校 株式会社大塚製菓工場

6

(1) 日程・内容

	10:00	10:30	11:30	12:00	13:00	14:30	15:30	17:30	19:00	20:00	21:00		
8月1日(木)			受付 出合いのつどい 交流活動 (アイスブレイク)	M.B整備作業	昼食(館内食)	内ロード (トランク敷地)	M.B隊列走行練習	撤収(練習)	テント設置・ 野外炊事 (カレーライス作り)	夕食 (野外炊事)	個人目標 グループ会議 走行時の約束確認	入浴 (館内浴室)	館内泊
【岩手山青少年交流の家】													

	6:30	7:00	8:30	12:00	13:00	15:30	16:00	17:00	17:30	20:00	21:00
8月2日(金)	清掃・洗面 準備	朝食(館内食)	マウンテンバイク 隊列走行 (岩手山交流の家 ～矢櫃地区水辺公園)	昼食(弁当)	(川遊び) 野外活動	マウンテンバイク隊列走行 (矢櫃地区水辺公園～ 県営漕艇場艇庫)	シャワー	寝床作り	(野外炊事)	夕食	泊 グループ会議 県営漕艇場艇庫
【発：岩手山青少年交流の家】→【矢櫃地区水辺公園】→【着：県営漕艇場艇庫】											

	6:00	6:30	7:30	8:00	9:00	12:00	13:00	16:30	19:00	20:00	21:00	21:30	
8月3日(土)	起床・洗面 顔	朝食(簡易調理)	寝床撤収	着替え	漕艇場周辺散歩・ (カヌー体験)	野外活動	昼食(弁当)	マウンテンバイク 隊列走行 (県営漕艇場艇庫～御所湖一周 「御所湖の絶景スポット探索～ 雫石歴史民俗資料館」～雫石高 等学校)	夕食(公民館で 調理)	休憩	寝床作り	入浴 (あねっこの湯)	格技場泊 グループ会議 雫石高等学校
【発：県営漕艇場艇庫】→【御所湖一周】→【雫石町立御明神公民館】→【着：雫石高等学校】													

	6:00	6:30	7:30	8:00	9:00	11:00	11:40	12:40	14:30	15:30	16:30	20:00	21:00	
8月4日(日)	起床・洗面 顔	朝食(簡易調理)	清掃	寝床撤収	マウンテンバイク 隊列走行 (雫石高等学校 ～雫石神社)	学びタイム (雫石の由来・ 里山教室)	マウンテンバイク 隊列走行 (雫石神社～松ぼ っくり)	昼食(弁当)	マウンテンバイク 隊列走行 (松ぼっくり～相 の沢キャンプ場)	寝床作り	テント設置・ (網張りの湯)	入浴 (野外炊事)	夕食 グループ会議	テント泊
【発：雫石高等学校】→【雫石神社】→【松ぼっくり】→【着：相の沢キャンプ場】														

6:00	6:30	8:30	9:00	9:30	12:30	14:00	15:00	16:00	18:30	19:30	20:00		
8月5日(月)雨天	起床・洗顔	朝食 (野外炊事)	準備 テント撤収	講座 中症予防対策	学びタイム(熱)	マウンテンバイク 隊列走行(相沢キャンプ場～焼走り国際交流村)	弁当 おにぎり 休憩	※熱中症指数危険 により創作活動 (焼炭しおり作り)中止 寝床作り・休憩	※グループ 会議・振り返り	炊事 (野外)	入浴 (焼走りの湯)	※就寝準備	ドーム泊
【発：テント泊】→【着：焼走り国際交流村】													

6:00	6:30	7:30	8:00	8:30	9:30	14:30	15:00	17:00	18:00	19:00	19:30	20:00	
8月6日(火)雨天	起床・洗顔	朝食 (簡易野外炊事)	清掃 寝床撤収	登山準備	※バス移動 (馬返し登山口)	※岩手山登山 (馬返し登山口～八合目避難小屋) 途中昼食(おにぎり)	※休憩	※山頂アタック (八合目～山頂～八合目)	寝床確保 (簡易野外炊事)	夕食 (星空観察)	学びタイム	※就寝準備	山小屋泊
【発：焼走り国際交流村】→【馬返し登山口】→【山頂】→【八合目避難小屋】													

4:00	4:20	4:40	5:00	6:00	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	14:00	14:30		
8月7日(水)雨天	起床・洗顔	御来光観賞 (記念写真)	休憩 (簡易野外炊事)	朝食	徒歩下山 (八合目避難小屋～馬返し登山口)	休憩 (馬返しキャンプ場)	マウンテンバイク 隊列走行 (馬返しキャンプ場～岩手山青少年の家)	業・休憩	M.B.整備 片付け	昼食(館内食)	振り返り(個人目標・グループ目標)	別れのつどい	解散
【発：不動平八合目】→【馬返し登山口】→【着：岩手山焼走り国際交流村】													

## (2) 指導者

- ・ 国立岩手山青少年交流の家職員・法人ボランティア【生活全般、交流の時間の指導】
- ・ 登山ガイド山の風 大友 晃 氏【岩手山登山指導】
- ・ 滴石史談会事務局長 関 敬一 氏【雫石の名前の由来・里山教室指導】
- ・ 雫石町歴史民俗資料館 専門指導員 菅原 好美 氏【昔のくらしと道具について指導】

## (3) 企画のポイント

昨年度青森県立梵珠少年自然の家と合同で行った自転車での移動と自然体験活動を組み合わせた6泊7日の事業を、今年度は岩手山一周事業として行うことにした。

これは、国立青少年教育振興機構第3期中期目標・中期計画の自立する青少年育成の推進(2)の青少年教育に関する地域力向上等の為のモデル的事业の開発(a)豊かな人間性を育む長期自然体験活動事業の推進を念頭に置き、1週間以上の長期自然体験活動事業を見据え、参加者には趣旨にある通り、自然体験活動を通して自立を促すことを目的とした。

青森県梵珠少年自然の家との共催で得たノウハウを参考にし、当施設周辺地域の協力を得ながら企画・立案、準備作業を行った。

昨年度の事業の実績と広報活動の成果で募集人数を上回る申込みがあり参加者と保護者の面接を行い選抜した。選抜の主なポイントは参加意欲と自転車移動、岩手山登山を完遂できる体力があるかどうかを特に重視した。

今回の事業では、自転車走行と岩手山登山をメイン活動とし、共同生活を通して人と関わる能力を高めたり、協力して活動することの楽しさを体験したりできるように企画した。

また、岩手の名所や各地域の歴史について学ぶ機会を取り入れ、地域の魅力や先人が築き上げてきた伝統に気付くことができるようにした。

「早寝・早起き朝ごはん運動」を推奨していることから、おおよそ統一された規則的タイムスケジュールを設定し、毎日規則正しい生活ができるように配慮した。

また、自己目標を設定させ、自分自身で意識して行動できるようにした。そして、振り返りの時間を毎日設定し、今回の事業が終了した後も自分が立てた目標に向かって自主的に取り組んでいこうとする意識付けを図った。

集団生活を行う上で、参加者にとって身近な存在である法人ボランティアの力をかりながら、人とかかわる力や集団生活のマナーを学び、活動意欲を持続できるようにした。

#### (4) 広報のポイント

年度当初に全県の小学生児童に本事業も含めた年間事業チラシを配付した。事業2ヶ月前には、全県下の中学校に2部ずつポスターを配付し参加を呼びかけた。さらにホームページに募集要項を掲載すると共に、各教育委員会や報道機関へ開催要項とチラシを送付し、本事業開催についての広報を図った。

その結果15名の定員に対して、25名の応募があった。また、応募者は、県外や全県下と広範囲であった。

#### (5) 運営のポイント

一週間の長期キャンプとなるため、起床時刻、食事メニュー、活動・休憩時間、就寝時刻、睡眠、休憩時間など規則性を意識し、基本的な生活習慣を崩さないようにプログラムを計画した。約140kmの自転車走行、登山道については、全ての経路を実地踏査し、休憩所、体験場所などを確認した。また、登山を安全に実施できるよう、岩手山に精通した登山指導員をガイドに配置した。

移動や活動内容を充実させるために人数を15名とし、5人3班に編制した。また、各班に支援者として学生のボランティアスタッフを付け、1班先頭、3班後尾に職員を配置し、安全面に配慮した。

参加者には活動が自発的なものになるための工夫通して、毎日の活動の最後に班ごとの「振り返り活動」を設けた。

一週間を通して、基本的に活動班での生活が一緒となるようにし、それぞれの班内でコミュニケーションをとりながら協力して活動できるようにした。

登山予定日に雷注意報が発令されたことで安全面を考慮し、雨天プログラムに変更した。

また、熱中症指数が危険を示す数値が続いたことと、体力面を考慮し、焼走り登山口からの登山を馬返し登山口からの往復登山に変更した。

健康面における配慮通して、健康観察は朝と夜に行い、体調や排便の有無、薬の服用について聞き取りをすると共に、必要に応じて家庭と連絡を取り合うよう緊急時連絡先を準備した。

参加者の就寝後にスタッフミーティングを設定し、共有すべき内容や懸念される子供達への対応についての対策を話し合う場とした。

## 7 成果とその普及

初日に、出会いのつどいとアイスブレイクを行うことで初めて出会った班のメンバーやボランティアスタッフと打ち解けることができていた。「楽しい遊びですぐに友達ができた。」「みんなと仲良くなれたので安心した。」等の感想から、良好な人間関係づくりのきっかけとすることができたといえる。

また、普段のインターネットや携帯電話等情報メディアの普及した生活環境とは違った、自然環境の中で仲間と苦楽を共にする中で、「初めはうまく会話ができなかったけど、カレーライス作りで協力して仲良くなった。」「友達に、がんばろうと声をかけられ、あきらめずに最後まで走ることができた。」「夜のテント泊で部活のこととか話が聞けて楽しかったし、アドバイスをくれてかっこいいなと思った。」「岩手山登山はつらかったけど、ご来光や眼下に広がる雲海の眺めは最高だった。班のみんなとハイタッチをしたことがいい思い出になった。」等、相手を思いやる気持ちや達成感、苦楽を共にした仲間への感謝の気持ちを感じられたことは大きな成果であった。

さらに、地域の歴史や先人の偉業を学ぶ中で、「昔の人が自然と共存しながら生活していたことが分かった。身近にあるものを利用してよりよい生活をしようとして努力していたことがすごい。」「雫石の名前の由来が分かってよかった。自分の住む地域の歴史や名前の由来を調べてみようと思った。」等と自分の住む地域への関心を高めることができた。

最後に、この長期キャンプを支えているボランティアと反省会を重ねることで、ボランティアの成長を感じることができると共に、より子供と近い目線からの考えを聞いて気づかされることも多々あることを実感できたことも成果の一つであった。

## 8 今後の課題

一週間の自然体験活動を実施する上で、参加者の体調管理が最も大切な要素である。今回は、連日猛暑日を記録する暑い中での事業実施となり、予定していた休憩ポイントを変更して、参加者の体調に合わせて随時休憩をとるなど対応した。そのため、予定到着時刻の遅延により活動プログラムの一部を省略したり、時間を短縮したりするなどの措置をとった。また、施設見学や外部講師を委嘱している場合は、早めに変更の連絡を入れて了解を得ることができた。時間に余裕をもった日程を組むことはもちろんだが、その時の状況に応じて臨機応変に対応することが必要である。

また、今回の事業の趣旨やプログラム内容、役割分担、時間設定等の担当者間での共通理解はしてきたが、細部の分担や進め方の確認が必要であった。そして、所からの職員の協力を得ることが多かったため、関係職員は、事前打ち合わせの会議に参加して共通理解を図る必要があった。また、職員の負担軽減、緊急時の対応等に配慮し、人員を増やすなどして安全面に配慮することが大切である。



小岩井農場一本桜の前で  
「えい、えい、オー」



雫石神社付近での  
枝打ち体験の様子



岩手山八合目避難小屋前  
雲海からの日の出